

令和4年度 園評価

大垣市立北幼保園

評価 〈4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない〉

|         | No. | 内 容   | 自己評価 | ○成果<br>●課題  | 関係者評価                                 | 次年度への改善と方策   |
|---------|-----|---|------|---|---------------------------------------|--|
| 元気な子    | 1   | 個々の発達を踏まえた体作りの専門性を深め、さくらさくらんぼリズムや運動遊びを継続し、発達を促す。<br>室内でも体を動かして遊ぶ工夫をする。<br>指標：週案日誌に、体づくりの具体的内容を記載し、体を動かす活動を1日1時間以上行ったか。  | 3.3  | ○戸外で遊ぶ時間を確保すると共に室内でもリズム遊びやサーキット遊びを継続的に行った。体を動かすこと、戸外で遊ぶことを好む子が増えた。<br>●1日1時間以上の時間の確保が難しいときもあった。まとまった時間を確保できない場合にも、隙間時間を有効に使って意識的に体を動かすようにしていく。  | ・体を動かすことが楽しいと感じると自然に体力作りにつながり、よい。     | ・体作りの時間で連続1時間は難しい日もあるが、移動する際や、朝、帰りの会等を使って体を動かす機会を多くもつ。 |
|         | 2   | 「正しい手洗い・マスク着用」の必要性を理解できるように視覚的な支援や言葉かけを工夫し意識できるようにする。<br>見て分かるばい菌スタンプチェックを子どもの様子（忘れかけた頃）に合わせて行い、手洗いの歌で楽しんで習慣づくようにしていく。<br>指標：ばい菌スタンプチェックを学期に1回行い、子どもが手洗いの歌を覚え、手洗いの意識が高まったか。 | 3.2  | ○年齢に合わせて手洗いが楽しくなるような言葉を添えたり一緒に手洗いをしたりしながら習慣づけていった。ばい菌スタンプチェックをすることで、水で流しただけではばい菌はなくなることが目に見えてわかり、意識づけにつながった。<br>●ばい菌スタンプチェックをした時には丁寧に洗うことを意識づけることができるが期間が空くと忘れてしまいがちである。学期ごとに限らず園児の様子に合わせて繰り返し活用していきたい。 | ・コロナ以外にも感染予防で引き続き手洗い等が習慣づくことよい。       | ・引き続き感染予防は必要なので、楽しく手洗いができ、衛生面の意識が高まるよう、紙芝居や絵本の活用をする。   |
| 考える子    | 3   | 子どもの言動を観察、推察しながら幼児理解を深め、環境の再構成を図り、遊びが継続、発展していくようにする。<br>子どもの思いに耳を傾け、認めたり、周りに広めたりしていく。<br>指標：週案日誌は5領域や10の姿に照らし合わせて記録し、環境の再構成をしたか。  | 3.1  | ○遊び始めや振り返りの時間の話し合いを大切にすることで、どんな遊びをしたか、何を準備するかを園児と一緒に考えることができた。また、作った物を展示して保管することによって、遊びが継続したり友達の作品から刺激を受けたりして遊びが発展していく姿が見られた。<br>●週案日誌へ5領域や10の姿を通して記載することで、課題を明確にすることができたため、さらに次の活動へつなげていきたい。           | ・友達から刺激を受けることで学びになっている。               | ・指針や要領で確認しながら、5領域や10の姿に繋げて記入した週案日誌を保育者間で共有する機会を設ける。    |
|         | 4   | 絵本の読み聞かせを行うことで、豊かなイメージの世界を十分に楽しめるようにしていく。子どもの扱いやすい素材や身近な素材を準備しておくことで、イメージを豊かにして楽しめるようにする。<br>指標：取り出しやすく片付けやすい環境にするため、月2回（第1,3木曜）見直したか。                                      | 3.2  | ○子どもの興味に合わせた絵本を毎日継続的に読み聞かせをすることで、絵本の世界へのイメージを膨らませ、制作遊びにつなげていくことができた。<br>●園児がいつでも制作活動が始められるように取り出しやすく片付けやすい環境づくりを行った。月2回の環境見直しは、クラスによって差がある。遊びや園児の興味に合わせた物や新しい刺激となるような素材を準備していく。                         | ・絵本を身近に置くことで子どもの想像力を豊かにしている。          | ・子どもの興味と発達に合わせた絵本を設置する。<br>・月2回の環境見直し、学期に1回は互いに環境を見合う。 |
| なかよくする子 | 5   | 身近な自然（動植物）と触れ合う経験を大切にした環境を整え、生命の大切さに気付かせていく。<br>指標：活動中や振り返り時、自然物を発見した喜びや命の大切さ、慈しみが聞かれたか。  | 3.1  | ○夏野菜やさつまいもを栽培収穫した経験から、春に咲く花の苗を育てる活動へつなげた。葉が大きくなることや球根が芽を出すことに関心をもち、水やり等を進んでする子が多くいた。<br>●園内でできる限り自然に触れる機会をもつよう工夫しているが、園外での活動を増やすことで、より季節の移り変わりを感じられるのではないかとと思う。感染対策・職員の配置等の課題があるが工夫していきたい。              | ・命はかけがえないものであることを自然に感じられるようにされている。    | ・園外保育を今年度よりも多く行えるようにし、自然に触れる機会をもつ。                     |
|         | 6   | 遊びや生活の中で、異年齢児に意識を向けられるような計画をして、憧れやいたわりの気持ちを育む。<br>人との関わりを通して、相手の思いに気付いたり、自分の思いを伝えたりし、思いやる気持ちを育む。<br>指標：異年齢児のどの部分に目を向けさせていくのかを週案日誌に記載し、実行したか。                                | 3.0  | ○新型コロナの感染予防のために行事としての交流を行わない代わりに、日頃の活動の中で、他の学年の様子に目を向けるような働きかけを意図的に行った。上の学年への憧れをもって挑戦する姿や、下の学年に優しく接しようとする姿が日々の保育の中で見られた。<br>●異年齢児に関する週案日誌への記載は十分でないクラスがある。意図的な環境援助として記載していく。                            | ・友達との関わりの中で互いを認め合えることよい。              | ・午後の時間を利用して、職員間で子どものよい姿を伝え合う時間の確保をする。                  |
| 安心安全    | 7   | 感染予防を徹底し継続的に行う中で、学びの保障や参観の工夫をする。<br>指標：毎日の健康チェックカードの徹底をしたか。   | 3.6  | ○健康チェックカードを毎朝直接保護者から受け取り確認しながら、家庭の様子について尋ねることで、園児の体調を把握し些細な変化にも気付くことができた。<br>●健康チェックカードへの記入を忘れる家庭へは、引き続き声をかけて協力をいただく。   | ・家庭と園が同じ意識をもって連携していただければよい。           | ・感染予防は家庭に協力していただきながら引き続き行う。                            |
|         | 8   | 想定外のことを想定内できる命を守る訓練、防犯訓練を実施する。<br>指標：毎月PDCAサイクルで訓練したか。  | 3.3  | ○毎月の命を守る訓練を計画する段階で様々な状況を想定し、対応について考えた。また、園児も繰り返しの訓練を通して放送が聞こえたら遊びの手を止めて耳を傾け、保育者に注目する習慣がついてきた。<br>●合同保育の時や代替の保育士が入っている時の動きについても話し合い確認しておく必要がある。  | ・訓練を継続することで危機意識をもち、判断力や行動力の向上に繋がるとよい。 | ・どんな時間でもとっさの対応ができるよう、訓練する。<br>・危機管理マニュアルを年3回は見直す。      |
| 保護者地域   | 9   | 保育・教育の方針や日々の活動を通信や懇談などで分かりやすく伝える。<br>指標：毎月たよりで園の方針や活動を伝えたか。   | 3.5  | ○毎月の園だよりだけでなく、写真掲示やキッズビューを使った配信を通して活動の様子を伝えた。また、登降園時に一人一人の学びや成長について話した。<br>●保護者に伝わりやすい発信の仕方、話し方を工夫していく。   | ・発信や配信では伝わりにくい時は話せるとよい。               | ・地域や保護者参画の活動を計画し、園の様子を直に見てもらえる機会を増やす。                  |
|         | 10  | 個々の特性を理解し、早期からの支援が行われるよう家庭との連携をしていく。<br>指標：保護者からの相談に、速やかに対応したか。   | 3.4  | ○日頃から、些細な事でも保護者に伝え、成長を喜び合う関係を作ることができた。保護者から相談を受けた時には主任や園長と相談しながら、できるだけ速く対応し、周囲の職員とも情報共有をすることで、様々な角度から園児を捉えるようにした。<br>●今後も保護者へ肯定的な伝え方をし、園児の育ちを共に支えていくことができるようにする。  | ・何でも、話し合える関係性をより高めてほしい。               | ・保護者と信頼関係を築けるよう、日々の様子を肯定的に伝え、子育てについて一緒に考えていく。          |
| 職員      | 11  | 職員の心身の健康とやりがいを高めることで、保育の資質向上につなげる。<br>指標：職員同士で相談しやすい体制を作ったか。  | 3.4  | ○普段から、報告連絡相談を大切に、困ったことがあったら、一緒に対応策を考える体制を作ることができた。<br>●園児のエピソードや成長の姿を終礼前に話し合い、保育の面白さを共有し子どもの心を読み取ることで、資質向上につなげられるようにする。<br>●配置基準の見直しを行政へお願いしていく。  | ・喜びも困りごとともに率直に話し合える集団であってほしい。         | ・職員同士、互いを労り励まし助け合える温かい人間関係を築く。                         |